

児童生徒の悩みを聞く機会が多い養護教諭。いじめを早期に察知する上で保健室の先生の接し方はポイントだ。福井医療大(福井市)に通う養護教諭の「卵」たちがこのほど、いじめを防ぐ方策や学校に求められる対応について授業で考え、

養護教諭の「卵」 いじめ対応学ぶ

発表した。
森透教授の指導の下、1年生の一般教育科目「教育学」養護科目「教育原理」で取り組んだ「教育原理」では、養護教諭の免許取得を目指す35人が9班に分かれ「いじめっ子の心理」「教師・親はどう向き合つか」など、それぞれテーマを設定。いじめ問題を扱ったテレビ番組やインターネットの情報を

福井医療大の35人



森透教授

森教授「支える精神持つて」

参考にレポートをまとめた。LINE(ライン)いじめの実態を調べた班は、アメリカの14歳の女の子が考えた対策の仕組みを紹介。相手を侮辱する書き込みをしようにした時に「本当に投稿しますか？」というメッセージが表示されるもので「送信前に一度立ち止まって考えることが大切」と訴えた。「いじめられている子



いじめ問題について考察したレポートを発表する学生たち＝福井市江上町の福井医療大

の支え」をテーマに研究した班は、「子どもの人権110番」など、子どもたちに電話相談窓口の存在を確実に届けるべき」とした。
今月上旬の授業後に学生が書いた感想では「身体面だけでなく精神面をサポートし、頼られる養護教諭になりたい」「いじめている子の家庭環境にも目を向け、改善に向けて働きかけたい」といった言葉が並んだ。木村莉奈さん(18)はいじめられている子も、いじめられている子も孤立しないように、周囲が積極的に話しかけるようにしていくべきだと感じた」と話した。

池田中の生徒自殺問題の報告書では、自殺した生徒が保健室を訪れる日が増えたことを指摘しており、養護教諭の役割がクローズアップされた。ただ、森教授によると「保健室は子どもの逃げ場所になっている」といった見方から、学校内で孤立している養護教諭もいるという。
森教授は「困難を抱えた子どもの居場所として保健室の役割は大きく、悩みに連携して対応する『チーム学校』をつくる上で養護教諭はキーパーソン。上から目線ではなく、子を支えるというケアの精神を持った学校になるよう、養護教諭が校内で積極的に発信してほしい」と学生たちに期待を込めた。(宇野和宏)